

「ビオスタ[®]AD」によるアトピー性皮膚炎誘発標準プロトコール

(初回誘発方法)

- 1) NC/Nga マウス(日本チャールスリバー社製, 雌性, 10 週齢以降)を(エーテル)麻酔下, 背部および耳介部をバリカンで毛刈りした後, 除毛剤を適量塗布し除毛する。
- 2) 除毛剤をふき取った後, ビオスタ[®]AD 100 mg を背部および耳介部に均一に塗布する。
- 3) 塗布後, マウスを飼育ケージに戻す。

(2 回目以降誘発方法)

- 1) 毛が生えてきたことが確認された場合には必ず, バリカンおよび(または)電気シェーバーで剃毛する。
- 2) 4% SDS 水溶液 150 μ l をマイクロピペットで背部および耳介部に滴下しながら, 均一に塗布する。
- 3) ドライヤー(冷風)である程度乾燥させる。
- 4) マウスを飼育ケージに戻してから約 2~3 時間放置し, 自然に乾燥させる。
- 5) ビオスタ[®]AD 100 mg を背部および耳介部に均一に塗布する。
- 6) 塗布後, マウスを飼育ケージに戻す。

※全ての処理は 1 週間に 2 回のペースで行う。3 週間, 計 6 回の処理でアトピー性皮膚炎が誘発される。
(初回誘発後 17 or 18 日目に最終 6 回目惹起。21 日目にスコアリングを行い、実験に供試する)

(注意事項)

- 処理期間中, 毛が生えてきますが, 塗布時にまめにバリカンと電気シェーバーで剃毛してください。
- 毛が生えたままビオスタ[®]AD を塗布すると, 毛が搔破を妨げ, 皮膚炎スコアあるいは皮膚炎モデル作製率が低下する可能性があります。
- 上記標準プロトコールでは, 日本チャールスリバー社製の NC/Nga マウスでのみ発症を確認しております。
 - 上記プロトコールを基準とし, お客様の目的に応じてご変更ください。